

「税金か、できれば払いたくないよね。」

と言ったら、洗い物をしていた母の手が止まった。母は悲しいような怒っているような何とも言えない表情をして、靴から何かを出してきた。それは小児慢性特定疾病医療受給者証とこども医療費助成受給者証だった。

「みんな普段いろいろな公共サービスを受けて暮らしているんだけど、その財源の一部は税金で賄われているよ。陽菜は今、医療費の面でとても助けてもらっているんだよ。」

私は今年の春、病気になった。体のあちこちが痛くなり入院した。病名は若年性特発性関節炎。この病気は小児慢性特定疾病の一つで、助成対象者は申請をすると医療費の助成を受けることができる。私は三週間ほど入院したくさんの検査や治療をしてもらったけれど、制度のおかげでとても助けられたそうだ。母と一緒にいろいろと調べてみた。

私の住んでいる新潟市では、小児慢性特定疾病の治療等を受けた時に次のような助成を受けることができる。医療費負担が一律二割となり、一か月の自己負担限度額に達したのちは負担がない。またこども医療費助成等の自己負担が低い場合は双方を比較し低い方の額が請求されるそうだ。私は退院後も二週間に一度点滴に通い、検査もいくつか受けている。実際にどんな感じで助けてもらっているのだろう。具体的にイメージするために、私は小児慢性特定疾病医療費自己負担上限額管理票と診療費請求書兼領収書を見ながら計算してみた。私は本来かかっている医療費の高さに驚いた。もし税金がなかったらと考えると恐ろしくなった。

私には医師になりたいという夢がある。しかしもし税金がなかったら、このような助成を受けることができず私の家は経済的に困窮してしまうだろう。病院にだって通いづらくなり、病気が悪化していたかもしれない。大学に入るところか、受けることだって厳しくなっていたかもしれない。そう考えたら、税金は私の夢を将来に繋いでくれる懸け橋に思えた。

私は病気になんてなりたくなかった。けれどこの経験のおかげで日常生活の一つ一つに感謝できるようになった。医療費と税金の関係について調べる中で、税金は医療以外にも様々な場面で使われていることを知った。学校へ行けること、病院で治療を受けられること、毎日を安全に過ごせること。今まで当たり前で過ごしていた日常が当たり前ではないことを知った。税金の使われ方を知ったら、毎日に感謝できるようになった。税金のおかげで夢をもち続けることができると考えたらもっと頑張ろうと力が出る。本当はこんなに素敵な社会なのに、気づいていない人がたくさんいる。だから私はもっと税金の大切さを周りの人に伝えよう。知ったらみんなもっと幸せを感じながら毎日を過ごせると思う。私がそうであるように。